# 日精看の66のこと。

いつも、どこかで、日精看。
看護の現場から社会全体に至るまで、
全国各地で多種多様な取り組みが行われています。
会員のみなさんの最近の活動の一部を紹介します。

## 学術集会のこと

### 01 仙台で平成25年度学術集会の準備をしています
震災以後、日精看の仲間に助けられてきました。苦しいときこそ一緒に助けあう、学べることが必要です。一人じゃない、日精看の仲間がいます!!
**森 利秋（宮城県支部長）**
特定医療法人松涛会 南浜中央病院

### 02 秋田で学術集会専門Ⅰを開催しました
全国から550名の参加者が集まり、5領域の「研究発表」「分科会」などを通して、参加者と交流を図ることができました。
**山口敏博（秋田県支部長）**
秋田看護福祉大学非常勤講師

### 03 功労者表彰を受賞しました
気がついたら支部の事務局長が12年目になっていました。受賞は支部の皆様のご支援の賜物と深く感謝しています。
**古木正文（茨城県支部事務局長）**
茨城県立こころの医療センター

### 04 神戸で学術集会を開催しました
支部会員全員で参加者をお迎えし、支部の結束力を感じるとともに精神科看護のたくましさも感じ、盛会に終えることができました。
**田中美智子（兵庫県支部長）**
財団法人復光会 垂水病院

### 05 鳥取で学術集会専門Ⅱを開催しました
700名という多くの方々に参加いただいたこと、多くの看護学生の参加があったこと、他職種の参加も多く、盛大に開催できたことに感謝します。
**市村登美子（鳥取県支部長）**
社会医療法人明和会 医療福祉センター渡辺病院

### 06 学術集会（兵庫）で初めて看護研究論文を発表しました
学術集会での研究発表は貴重な体験でした。これからも自己研鑽に励み「安心、あったか、明るく元気」に看護をしたいと思います。
**須藤和恵（栃木県）**
栃木県立岡本台病院

### 07 学術集会など日精看のプロジェクトに参加しています
時代の趨勢を見据え、専門チームが、今後の精神科看護はどうあるべきか、各々の立場から白熱した議論を重ねています。
**麻場英聖（静岡県支部長）**
公益財団法人復康会 沼津中央病院

## 研修会のこと

### 08 精神科看護も基本が大事です
優れた実践能力を持つ皆さんに、その背骨を支え、他者へ伝えるための基本的知識をお伝えします。マスターすれば、鬼に金棒です。
**萱間真美（東京都）**
聖路加看護大学

### 09 看護実習指導者講習会で講師をしています
教材観、学生観、指導観を皆で語ることで、指導者としての自己成長をめざしています。ポリシーは「指導の質が看護の質」です。
**中村博文（千葉県）**
千葉県立保健医療大学看護学科

### 10 東京研修会場でメンバーと一緒にコーヒーサービスをがんばっています
コーヒーサービスは就労支援として貴重な仕事の場になっています。皆様との交流を通して自信をつけ、次のステップを目指します。
**寺沼吉都（東京都）**
特定非営利活動法人ヒューマンケアクラブストライド

### 11 毎年たくさんの申し込みをいただいています
CVPPPの研修会で、危機的な状況で患者さんに「寄り添う」ということの意味を考える機会を提供したいと考えています。
**下里誠二（長野県）**
信州大学医学部保健学科

### 12 看護管理者研修会を行っています
「良い看護管理によって病院は変わる」を目標に、明日から役立つ「目からうろこ」の管理者研修を企画しています。
**大塚恒子（日精看副会長）**
財団法人仁明会精神衛生研究所

### 13 山口県委託地域自殺対策緊急強化事業「うつ病医療体制強化研修会」を開催しました
協会と連携して企画し、県外の講師も招き開催しました。うつ病の診断と治療、薬物療法、看護、就労支援など充実した内容でした。
**山田陽一（山口県支部長）**
医療法人光の会 重本病院

### 14 毎年、看護研究発表会を開催しています
徳島県支部では、看護能力の向上を図るために、毎年、各施設から看護研究論文を持ち寄り、発表会を開催しております。
**廣瀬竜也（徳島県支部事務局長）**
社会医療法人あいざと会 藍里病院

### 15 富山県支部で人気の研修はCVPPPトレーナー養成コースです
いち早く取り入れ、平成19年より開催しています。近隣県も含めて毎年30名が参加され、これまで202名に認定証を渡しました。
**山田恭一（富山県支部長）**
独立行政法人国立病院機構 北陸病院

### 16 『生の声会議』で会員のニーズをつかんでいます
各施設の教育担当者から「ぶっちゃけ」の意見をたくさんいただき、教育委員会の計画に活かしています。
**岡本眞知子（高知県支部長）**
特定医療法人仁生会 細木ユニティ病院

### 17 京都研修センターでコーヒーサービスをしていただいています
研修会参加者へのコーヒーサービスで「就労支援センターそういろ」のメンバーさんに就労移行支援の場を提供しています。
**有本妥美（日精看京都研修センター教育部長）**
日精看事務局（京都研修センター）

### 18 支部合同で東北学術集会を開催しました
先輩が築きあげた学術集会を、東北人の素朴な絆でホットにつないでいます。研究発表と情報交換の場としておおいに活用されています。
**尾形和恵（岩手県支部副支部長）**
特定医療法人智徳会 未来の風せいわ病院

### 19 支部研修会を年14回開催しています 宮崎以外の方も大歓迎です
交流の場、自己研鑽できる場として、テーマも会員さんの声を反映して企画しています。宮崎県支部は今年度目標の会員数500名を超えました。
**泉 武康（宮崎県支部長）**
医療法人如月会 若草病院

### 20 支部研修会で初めて看護研究論文を発表しました
人前で話すことに慣れていないため、とても緊張しましたが、さまざまな意見をいただき、大変貴重な学びの場となりました。
**後藤俊介（兵庫県）**
医療法人財団光明会 明石病院

### 21 離島研修会を開催しています
自然豊かな徳之島、奄美大島の地元研修会を支援する活動を行っています。平成24年10月には末安会長に講演をいただきました。
**下野義弘（鹿児島県支部長）**
鹿児島県立姶良病院

### 22 鈴木純一先生のデイケア研修会は大好評でした
たくさんの多職種の方に受講いただき、集団精神療法について学びました。また、ご講義くださった日は鈴木先生のお誕生日でした。
**吉川陽子（日精看教育部長）**
日精看事務局

## 精神科認定看護師のこと

### 23 専門領域の調査・研究をしています
厚労省科学研究費の分担班の一員として、隔離・拘束を最小化するための要因分析の研究を大学や他施設の方と共同で行っています。
**浅川佳則（大阪府）**
医療法人長尾会 ねや川サナトリウム

### 24 精神科認定看護師実習を受け入れています
スペシャリストになるための看護実践能力やコンサルテーションを学べるよう、認定志願者の意向を尊重しながら支援しています。
**新井絢子（埼玉県）**
埼玉県立精神医療センター

### 25 精神病床のない総合病院で精神科看護を行っています
精神科認定看護師として、一般科に入院されたせん妄や気分障害などの症状を呈する患者さんに「こころのケア」を提供しています。
**樋口和央（北海道）**
旭川赤十字病院

### 26 精神科認定看護師になったときがスタートです
精神科認定看護師の会では活動の紹介や、認定看護師の相談にのっています。「一人は皆のために、皆は一人のために」がモットーです。
**横山公恵（福井県）**
福井県立病院こころの医療センター

### 27 ベストプラクティス探求のために精神科認定看護師をめざしました
私が認定看護師をめざした動機は、精神科看護の専門的知識をより深め、困難な事例に対して効果的な支援助を実践したいと考えたからです。
**内田正樹（群馬県）**
富岡看護専門学校

### 28 看護の質の向上のため精神科認定看護師を養成しています
臨床の「目前」の課題解決のみならず、精神医療・看護の「将来」を見通した活躍ができるよう、皆さんの熱意を応援していきます。
**吉川隆博（岡山県）**
山陽学園大学看護学部看護学科

## 精神科領域全体のこと

### 29 精神科病院での事件に対する協会声明について考えました
あってはならないことだが、なくならないのも現実。そこで働く看護者たちにエールを送るのも、日精看の大きな役割ですね。
**伏見博之（大阪府支部長）**
大阪府立精神医療センター

### 30 精神科領域の看護師の人員配置を高める提言を行いました
今後の精神科急性期医療では一般病床と同等の人員配置とし、早期退院を前提としたより身近な精神医療とすることが話し合われました。
**天賀谷 隆（日精看副会長）**
東海大学健康科学部看護学科

### 31 精神科看護ガイドラインを作りました
多くの知恵と実践を結集し、今日の精神科看護のスタンダード集を作りました。明日のスタンダードを創るのはあなたです。
**工藤正志（日精看常任理事）**
医療法人久盛会 秋田緑ヶ丘病院

### 32 倫理事例集を作りました
精神科は倫理問題の宝庫です。臨床で起こっている実際の事例を集めました。悩まれたとき、アレ?と思われたとき、ご活用ください。
**坂田三允（日精看監事）**
医療法人社団新新会 多摩あおば病院

### 33 日精看の研究助成費で研究活動をしています
精神科看護師の看護実践能力向上に向けた教育プログラム構築に関する研究をテーマに、研究活動に取り組んでいます。
**藤野成美（福岡県）**
九州大学大学院医学研究院保健学部門

### 34 診療報酬改定に向けた提言を行っています
長期間、政策業務委員を務めました。この間の活動成果の軸は行動制限最小化委員会を診療報酬に位置づけることを提案、実現したことです。
**吉浜文洋（日精看常任理事）**
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科

## 社会貢献のこと

### 35 ハートフルフェスタ in 広島（第7回）を開催しました
8つの作業所による手芸品等の販売、ミニライブ、こころの健康相談などで、県民にこころの健康についてアピールしています。
**中川惣一（広島県支部長）**
医療法人仁康会 小泉病院

### 36 「こころの日」のイベントを行いました
「ストレス社会」をテーマに講演会と映画会を実施しました。一般の方も多く参加され、意見交換するなど貴重な交流の場になりました。
**日高幸徳（愛知県支部広報部）**
医療法人岩屋会 岩屋病院

### 37 アール・ブリュットを応援しています
精神科病院で、患者さんが楽しみながら創っている作品を見出し、病院外の方々にお知らせする活動を会員の皆さんと一緒に行なっています。
**末安民生（日精看会長）**
天理医療大学医療学部看護学科

### 38 出前講座に力を入れています
「こころの健康」に関するニーズが年々高まり、精神科看護師が参加者と積極的にキャッチボールし理解を深めています。
**大野勇二（石川県支部長）**
社会医療法人財団松原愛育会 松原病院

### 39 薬物依存について高校で授業をしています
看護現場での体験や学びを予防教育に活用できたら、精神科看護師のモチベーションアップにつながり、学びや新たな発見にもなります。
**幸村幸男（神奈川県）**
神奈川県立精神医療センター芹香病院

### 40 正しい情報を発信しています
精神疾患の正しい知識をわかりやすくまとめた本をつくりました。具体的な事例を通した内容は「ですが！精神科看護師」と大好評でした。
**仲野 栄（日精看専務理事）**
日精看事務局

## 被災地支援のこと

### 41 石巻で地域ケア担当者交流会を行っています
被災地支援活動の一環として、こころのケアに関する交流会を行っています。毎回、「支え合うから人なんだ」と強く思います。
**高橋政代（岩手県支部長）**
もりおか心のクリニック

### 42 被災地でこころのケアをお届けしています
相双地区で津波や原発事故で被災された方を支援しています。精神科認定看護師として、地域で何ができるのか、日々、奮闘しています。
**米倉一磨・佐藤照美（福島県）**
相双広域こころのケアセンターなごみ

### 43 被災地支援研修会を行っています
これまで、精神科看護に活かせるような認知行動療法の基本やスキルについて、東京や京都、また東北でも研修をさせていただきました。
**岡田佳詠（茨城県）**
筑波大学医学医療系保健医療学域

### 44 被災地に支援物資を届けました
生活必需品がないという一報が届き、東京まで車を走らせ、物資とともに思いも運びました。中継拠点である日精看の存在に感謝です。
**金山千夜子（島根県支部長）**
医療法人同仁会 海星病院

### 45 被災地支援のボランティアに行きました
宮城県の病院は桜が満開でした。がれきの中で健気に咲く水仙の花を見ました。「もう帰るの？」別れ際の患者さんの言葉です。
**松尾富佐子（福岡県）**
医療法人社団新光会 不知火病院

### 46 宇都宮～喜多方まで190km24時間の復興支援マラソンを行いました
呼びかけに集結した全国の仲間と復興の祈りを込めて「たすき」をつなぎ、ゴールでは被災病院の職員や患者さんが温かく迎えてくださいました。
**伏田善祐（滋賀県）**
滋賀県立精神医療センター

### 47 チームワークが山梨県支部の自慢です
自然豊かな環境は「こころのケア」にぴったり、リフレッシュにも効果的。日精看としての活動は強力にまとまる10施設ががんばっています。
**長坂暁恵（山梨県支部長）**
社会医療法人加納岩 日下部記念病院

### 48 精神科訪問看護ステーションを始めました
精神科の好きなちょっと変わった個性的な仲間6人で、利用者が主体の訪問看護をめざし今日も掃除機とモップを持参しがんばっています。
**五十嵐良一（山形県）**
訪問看護ステーション庄内

### 49 地域連携、がんばってます
支援することとは何なのか？精神科でなければ経験できないことから学びを得ると同時に、出会う当事者の方々の笑顔に癒されている自分がいます。
**東谷美智子（三重県）**
特定医療法人北勢会 北勢病院

### 50 行政と一緒に地域移行を推進しています
県の地域移行支援強化事業のプロジェクトメンバーとして、地域ネットワークの構築と人材育成を目的に従事者養成研修会の企画をしています。
**高田久美（鳥取県）**
南部町国民健康保険 西伯病院

### 51 福岡県精神科病院協会とコラボ研修会を開催しました
精神科看護のレベルアップをめざし、新人と再就職者、准看護師や看護補助者を対象とした研修会を開催しました。
**山本哲生（日精看副会長）**
医療法人信和会 城ケ崎病院

### 52 沖縄に日精看ができてから43年が経ちました
沖縄県支部は沖縄が「日本」でなかった昭和40年に創設。会員46名は協会気付でした。昭和53年には全国大会開催。感慨深いものでした。
**島仲花枝（沖縄県）**
元 沖縄県立晴和病院

### 53 平成24年度通常総会を開催しました
神戸の通常総会で議長の大任を無事果たすことができました。協会と支部の連携と信頼関係で構築されている日精看の組織力が誇りです。
**戸村美名子（愛媛県支部長）**
財団法人創精会 松山記念病院

### 54 支部創立50周年記念行事を開催しました
新潟県支部創立50周年記念事業では、歴代の諸先輩の努力に励まされ、未来を語り合って記念大会と記念誌作成を行いました。
**清塚厚子（新潟県）**
医療法人越南会 五日町病院

### 55 文化財修復業を経て精神科看護師に戻りました
夢を追って修復の仕事をしてきました。全力で自分の好きなことをさせていただいたお礼として、看護師としての社会貢献が次の目標です。
**嶋本亜紀（和歌山県）**
医療法人旭会 和歌浦病院

### 56 東京都の委託で精神科訪問看護研修会の講師をしています
精神科訪問看護の日頃の疑問と悩みについて、医師、多職種、先輩看護師の話あり、グループワークや質問コーナーで盛りあがっています。
**小松弘美（東京都）**
訪問看護ステーション北沢

### 57 治療効果の高い精神科デイケアをめざしています
集団療法を用いた実践のプログラムの導入により内容の充実を図りながら、個別性を重視した支援計画をめざしています。
**盛重 泉（大分県）**
医療法人山本記念会 山本病院

### 58 「自殺対策強化月間」にあわせて自殺予防対策セミナーを開催しました
福井県の東尋坊で命の番人としての活動と「すぐにでも使用できる効果的なコミュニケーション技術」をテーマに開催しました。
**早川幸男（日精看専務理事）**
日精看事務局

## さまざまなこと

### 59 支部長としてがんばっています
佐賀県支部は元気に明るく、会員の皆さんに「今日の研修会よかったね」と言ってもらえるように幹事一同がんばっています。
**小松和也（佐賀県支部長）**
医療法人松籟会 松籟病院

### 60 支部発行ニュースの名前は「のぶながくん」です
情報伝達と交流の一つとして会員の皆様へ送り、精神科看護の魅力を伝えています。会員のパワーを日本のど真ん中から全国へ発信します。
**家田重博（岐阜県支部長）**
医療法人春陽会 慈恵中央病院

### 61 医療安全推進フォーラムを開催しました
「療養環境の安全確保と病棟ルール」について発言しました。医療安全を多角的視点から考えることができ、有意義なフォーラムになりました。
**大谷須美子（奈良県）**
財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん

### 62 アウトリーチ推進事業に取り組んでいます
国の委託を受けて、多職種による支援活動を始めて1年経ちました。各機関調整やご本人の拒否など、一進一退の状況です。
**平井 整（青森県）**
一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院

### 63 一般科に転勤して2年目そこでも精神科看護が活きています
患者さんへの精神的ケアに関する対応やスタッフ自身が抱える悩みや相談に対して、いきいきと仕事ができるようなサポートに努めています。
**山中利文（長崎県）**
長崎県島原病院

### 64 子どもの発達について地域へ情報発信中です
県の「思春期保健対策検討会」に委員として参加しています。11月から週一で外来相談窓口担当になりました。
**竹原厚子（香川県）**
香川県立丸亀病院

### 65 フィンランドと共同で研究やセミナーを行っています
日本だけでなく世界に目を向けることで、厳しい臨床状況の中で生まれる日本独自のケアにあらためて気づくことができました。
**三宅美智（奈良県）**
天理医療大学医療学部看護学科

### 66 精神保健福祉フォーラムを開催しました
12月のフォーラム in 愛媛の現地担当、吉野です。開催に向けて、愛媛的にも日精看的にも団結力UPでがんばりました。
**吉野百合（日精看理事）**
財団法人創精会 松山記念病院

# 66年目の日精看

発行／2013年1月　日本精神科看護技術協会

## あらためてお伝えします。
## これまでと、これからの、日精看。

日本精神科看護技術協会会長 末安民生

日本精神科看護技術協会（以下、日精看）は、発足66年目を迎えています。日ごろから、会員の皆さんには学術集会でお目にかかる機会、あるいは情報誌『ナーシング・スター』誌面上にて、日ごろのご協力への感謝をお伝えし、日精看がこれからめざす方向性へのご理解・ご協力をお願いする場を設けてきましたが、この節目にあらためて日精看の歩みを振り返り、未来に向けての抱負を、代表としてお伝えしたいと思います。日精看への入会をご検討いただいている皆さんにも、私たちの日ごろの活動を知っていただく機会になれば幸いです。

日精看は、1947年7月に発足した「全日本看護人協会」が前身です。精神科看護という領域がまだ手探りであった時代から、東京や山梨の現場で奮闘する先輩方、有志が集い、徐々に全国規模の団体として広がりました。1949年には機関紙『全看協ニュース』の発行を始めるなど、創成期より「仲間とのつながり」を重視した活動がなされてきました。日本精神科看護協会に改称したのは1958年のこと、第1回の研修会が神奈川県で開催されたのは1964年のことでした。

同時に、各地の支部も早くから活動を始め、足並みを揃えていきます。戦後で日本社会も混乱にあり、精神科医療もまた熟していない時代でした。沖縄県では、「精神科看護を学びたい」という強い志を持った先輩方が日精看で学ぶために入会を希望しましたが、当時は返還前で「国外」扱いであったため支部もありませんでした。しかし、その方々の熱意に応えるために協会気付というかたちで入会を受け入れたというエピソードがあったそうです。当時、沖縄県内で働く精神科看護従事者180名以上が加入したと聞いています。まさに、全国の先輩方がコツコツと培ってきた歴史の上に、我々の現在があるのです。「精神科看護とは何か」「よいケアとは何か」という共通のテーマをもち、全国で交流を積み重ねながら、仲間としてつながりを深めてきたのです。

### 日精看の主なあゆみ

**1947**
「全日本看護人協会」（略称「全看協」）を結成・発足し、男性の看護者50名をもって、精神看護技術の向上、相互親睦を目的とする。

**1958**
全看協を発展的に解体し、男女会員から成る「日本精神科看護協会」として新たに発足。学術中心の職能団体となる。会員数８００名、５支部。
第１回日本精神科看護学会を開催。

**1976**
厚生省（当時）から法人認可され、「社団法人日本精神科看護技術協会（略称「日精看」）と改称する。会員数１７，０１３名、45支部。

**1988**
全都道府県に支部設置。47支部、会員数２５，４０２名。

**1994**
精神科認定看護婦・看護士制度を創設。

**1998**
7月1日（精神保健法施行の日）を「こころの日」と位置づけ、市民向けの活動を開始。

**2002**
会員数４万名を突破。（４０，２０３名）

**2007**
京都研修センター開設。

**2009**
品川に事務局を移転。

**2010**
ネット九州を開設。

**2011**
精神科認定看護師が４００名に。

このような現場を起点とした自発的な動機によって発展する文化は、今の日精看にも息づいています。

例えば、2011年に発生した東日本大震災では、被災した仲間たちのために、全国の会員が立ち上がりました。「白衣が不足している」という声が挙がれば、「では、ソックスもシューズも、アンダーウェアも送りましょう」と多くの物資が事務局に寄せられました。ボランティアを募れば、看護部長が率先して参加してくださり、マネジメントの視点から被災地のサポートに奔走してくださいました。新人看護師からベテランの管理職まで、層の厚いネットワークを築けていることも、日精看の特長です。

また、日ごろの会員募集活動においても、非会員を対象に無料で行う「ウェルカム研修会」(東京都支部)といった企画が継続されるなど、「仲間が仲間を呼ぶ」広がりが見られます。

## 仲間をつなぎ、助けあい、高めあう すべての事業に貫かれる「現場主義」

全国4万人の組織にまで発展した日精看が現在行っている事業は、大きく分けて3つあります。

1つは、学術集会に代表される、精神科看護の技術向上をめざす教育事業です。学術集会は、年度ごとに学術集会主題を設定し、臨床で看護師としての役割を果たすうえでの専門技術の研鑽を行う目的で年3回開催しています。平成24年度は計2,500人もの参加がありました。

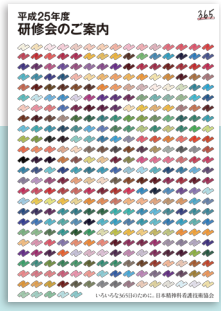
また、テーマ別のスキルアップに役立つ研修会も好評をいただいています。新人研修から管理者研修まで、年間126もの研修会を企画・運営し、講義や演習など多様な内容で、精神科のケアの質を高める機会を提供しています。

研修で習得した知識をより現場に活かし、キャリアアップにつなげるための精神科認定看護師制度も導入し、水準の高い専門的な看護実践ができる看護師を社会に送り出すことに貢献しています。「退院調整」「行動制限最小化看護」「うつ病看護」など10の領域での精神科看護のスペシャリストを育成しています。

一般的な看護技術のみならず、「患者の話を傾聴する」「患者の人生に寄り添う」といったヒューマンスキルが重視される精神科看護では、学ぶことに終わりはありません。むしろ経験を積むごとに、新たな学びのテーマが見つかるものです。切磋琢磨を続ける看護師のニーズに応えられる団体でありたいと、私たちは考えています。

2つ目の事業は、精神科医療における課題の解決や精神科看護の適正な評価を実現するための活動です。この10数年、国による精神保健医療福祉のあり方に関する検討が続けられています。その検討会に精神科看護師の代表として参加し、よりよい精神科医療の実現のために私たちができることを提言しています。また、診療報酬改定では、患者の速やかな回復に寄与するケアや取り組みの評価等について看護の立場からの意見を提出しています。このよう

**学術集会**
37回目となった日本精神科看護学術集会(2012年／兵庫県)の主題は「精神科看護と社会貢献」。全国から1,340名が参加しました。




**研修会のご案内**
毎年、年初に全会員にお届けし、研修会、精神科認定看護師制度、看護実習指導者講習会などについてお知らせしています。

**精神科認定看護師**
1994年に創設した精神科認定看護師制度により、2012年4月時点で計461名の精神科認定看護師を輩出しています。

**倫理事例集**
精神科看護者の精神科の現場での倫理意識を向上させるため、日精看がプロジェクトチームを立ち上げ、作成しました。

な政策提言を行うための現場の声や豊富なデータをもち、すぐに集約できるのも日精看の強みです。そして、精神科看護の専門職能団体として、倫理事例集やガイドラインを作成して発信するなど、精神科看護全体の水準を向上させる「現場で役立つツール作り」も強化しています。

## 患者と医師、患者と家族、そして患者と社会をつなぐ役割

3つ目の事業として挙げられるのが、精神科医療従事者と社会をつなぐ社会貢献活動です。精神科医療は、長らく「閉じた社会」の中にありましたが、これからはもっと外に開いていくべき時代を迎えています。病院の中で、看護師は「つなぐ」役割を果たします。医師と患者をつないだり、患者と家族をつないだりして、治療を円滑にする役割を担っています。この役割を広げて、社会と病院、あるいは社会と患者をつなぐ機会を促進していきたいと考え、さまざまな取り組みをしてきました。

最初に始めた取り組みは、7月1日の「こころの日」です。今では、社会に向けての情報発信を目的としたイベントを全国の支部で開催しています。企業や団体に精神科看護師が出向いて、メンタルヘルスに関する講義を行う「こころの健康出前講座」も好評です。このような“外向き”の活動を通して、看護師が自らの社会的価値を再確認することが、日々のやりがいにつながっていくと考えています。

近年、書籍やウェブでの情報発信を通じて、精神科看護のノウハウを、病気を患った方に限らず活かしていただくための取り組みに力を入れてきました。情報誌『ナーシング・スター』を一般の方々にも楽しんでいただける内容に刷新したのも、その取り組みの1つです。さまざまなチャンネルを通じて、「オープンな精神科」を日精看は推進します。

また、「アール・ブリュット」作品の普及活動も、諸団体と連携しながら行っています。学術集会の中で展覧会を開催し、多くの方にその作品の魅力を知っていただく場を作っています。アール・ブリュット作品は精神科病院で産声を上げることも少なくなく、精神科看護師が作家を社会につなぐ役割を果たしています。

先述しました被災地支援についても、震災発生直後から今に至るまで、その時々のニーズに合わせて必要な支援を見極め、継続して行ってきました。現在では、東北地区の復興支援や被災地域の精神科医療福祉に対するサポートなどに取り組んでいます。大切なのは、必ず現場に行って、今起こっていることは何か、解決すべき問題は何か、確認してから行動を起こすことです。私たちが行うべきことは仲間を助けること、つまり、「被災地のケア者をケアすること」とし、具体的な支援を行ってきました。これらの活動を通して再認識したのは、全国ネットワークがあるからこそ可能になる地域間の支えあいの素晴らしさです。この価値を社会に提供できる団体をめざして、今後も活動を続けていきたいと考えてい

**こころの日**
1998年から取り組みを始めた「こころの日」、2012年には43都道府県で市民向けのイベントを行いました。

**こころの健康出前講座**
日精看では、平成23年度より出前講座の講師養成を始めています。社会貢献活動は、看護師自身の力にもなっています。

**一般向け書籍**
『大切な人の「こころの病」に気づく 今すぐできる問診票付』（朝日新書）など、出版物による普及啓発にも力を入れています。

**アール・ブリュット**
学術集会でのアール・ブリュット展の開催、「こころの日」の記念品などへの作品の使用を通じて、その輪を広げています。

ます。

以上、日精看の事業の概略についてご説明してきましたが、これらの活動すべてに貫かれるのは、「現場主義」であると私は考えています。

学問研究は統計的な数値が求められたり、それが最も意味があるという文脈で語られたりすることが多くなりましたが、看護、特に、精神科看護においては、現場の事例一つひとつに重要な回答があるのだと思います。その事例を仲間と共有しあい、議論しあい、先輩方が積み上げてきた経験の上にさらに経験を重ねて磨かれていくのが、精神科看護ではないでしょうか。日精看は、個人個人の会員が現場で培った事例を、未来に活かせる財産にできるようなお手伝いをしていきたいと考えています。

## 先輩方の実績に学び、新たなニーズに応える——温故知新の精神で

仲間をつなぎ、助けあい、高めあう。全国の支部とともに歩んで発展してきた日精看ですが、まだまだ内向きであるのが現状です。臨床の現場を足場として、教育機関や他団体ともさらなる連携を図り、活動の場を広げていきたいと考えています。

精神科領域で働く看護師・准看護師が4万人も集う団体は他にありません。この強みを活かして、より社会に発信できる団体をめざしていきたいと思います。また、医療倫理に関わるような事故・事件等が発生したときは、精神科看護師の立場から提言ができる唯一の団体として、声明を発表してきました。日精看が常にゆるぎない立場で存在することが、全国の精神保健医療福祉の現場で奮闘する看護師一人ひとりにとって、励みになるものと信じています。例えば、会員の皆さんが転勤や異動によって職場が変わったとしても、日精看はいつも変わらぬ拠り所としてあり続けたい。今後もその姿勢は持ち続けたいと思います。

一方で、公益法人化へのチャレンジも、引き続き進めてまいります。2012年に支部会計の不祥事による申請延期という事態が発生し、会員の皆さん、関係各位には多大なご迷惑をおかけしましたが、これによって私たちの歴史、団体としてめざす方向性が変わることはありません。現在は、コンプライアンス体制の強化など、これまで脆弱だった部分の課題を克服するための方策をとりつつ、「全国の支部と一体である」という方針は変えずに、公益法人移行をめざしています。

さて、日精看は66年目を迎えました。そして、また、67年、68年と、未来へ向けて歩んでいきます。

長い年月に渡って先輩方が知恵と工夫を重ねて習得されてきたケアを引き継ぎながら、最新の諸科学を取り入れ、社会とかかわりながら、日本の精神科看護がより充実するように努力を惜しまず進んでいくのが、私たちの使命です。変化する時代の要請を敏感に感じ取り、応えていく。温故知新の精神で、また新たな歴史を刻んでいきたいと思います。

**被災地支援**
全国の仲間による支援は物資や人やメッセージや義援金などさまざま。復興に向けてこれからも私たちにできることを続けます。

**ナーシング・スター**
1958年に創刊された日精看ニュースは毎月1回の発行を続けており、2013年1月の最新号は643号となっています。

**ホームページ**
さまざまな事業や最新情報をお知らせし、精神科看護者と市民の方がともに活用できる情報交流の場となっています。www.jpna.jp

**日本精神科看護技術協会 事務局**
〒108-0075
東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル7F
Tel 03-5796-7033　Fax 03-5796-7034